グアテマラ内政・外交（2011年2月）

平成23年3月
在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

内政面では、6日、野党愛国党(PP)が党大会でオットー・ペレス・モリーナ同党前党首を本年大統領選挙における同党大統領候補として選出したほか、その他各党も大統領及び副大統領候補を選出した。21日、エル・ペリオディコ紙が発表した世論調査結果で、オットー・ペレス・モリーナ PP 前党首に対する支持率が49.2%、つづくサンドラ現大統領夫人に対する支持率は11.1%となった。治安面では、19日、アルタ・ベラパス県における戒厳状態宣言が終了する一方、16日、キチェ県の水力発電所発電塔が破壊された。

外交面では、ロダス外相が米国を訪問し(2日から3日)クリントン米国务長官との会談、インスルサ米州機構(OAS)事務総長との会談等を行ったほか、ブラウンフィールド米国务次官補(麻薬対策)が当国を訪問し(7日から8日)、コロン大統領との会談等を行った。

2. 内政

(1) 本年総選挙を巡る各党の動向

(ア)愛国党(PP):6日、愛国党(PP)は党大会を開催し、本年大統領選挙における同党大統領候補としてオットー・ペレス・モリーナ前党首を、副大統領候補としてロクサーナ・バルデッティ党首(女性)を選出した。グアテマラ市郊外で行われた同党党大会には支持者を中心とする約4万人が参加した。

(イ)与党国民希望党(UNE)関連:9日、サンドラ大統領夫人はハラバ県における条件付支援金交付制度(Mi Familia Progresada)受益者との会合において、大統領選出馬の可能性について検討する旨述べた。23日、フティアパ県内の16市長(国民大連合(GANA)所属)はサンドラ大統領夫人の大統領選への出馬を要請した。

(ウ)国民革新党(UCN):19日、党総会において、マリオ・エストラーダ党幹事長を本年大統領選挙における同党大統領候補として選出した。エストラーダ幹事長は、ポルティージョ元大統領について、友で義兄弟であるとし、全てのグアテマラ国民の心に生きているとしつつ、(同元大統領は)当国の法律制度の犠牲になった等評価した。

(エ)グアテマラ国民革命党(URNG)-左派拡大運動(MAIZ)及び新国民同盟(ANN):6日、ヌイラ国会議員(URNG)は、グアテマラ国民革命党(URNG)-左派拡大運動(MAIZ)の党大会において党幹事長として再任された。27日、左翼系政党であるグアテマラ国民革命党(URNG)及び新国民同盟(ANN)は、拡大戦線(Frente Amplio:FA)の名称の下、選挙同盟を組む旨発表した。

(オ)社会行動党(CASA):27日、社会行動党(CASA)は、本年大統領選挙における同党大統領候補として、企業家のカルロス・スニガ元農業会議所会頭を選出した。

(カ)統一会派(PU):22日、統一会派(PU)のラヨ国会議員は国会において、アルスー現グアテマラ市長(元大統領(1996-2000年))の本年大統領選挙への出馬の可否に関する申し立てを憲法裁判所に行いたい旨表明した。国会における投票で、賛成票は出席議員136名中8票に留まり、同提案は棄却された。バルデッティ

愛国党(PP)党首は、「当国憲法第187条は大統領の再選を明確に禁じておりアルス一元大統領の大統領選挙出馬が不可能なのは明らかである。」旨述べた。

(2) 2011年大統領選関連世論調査結果

21日付エル・ペリオディコ紙は、本年の大統領選挙に関し全国で実施した(2011年2月5日～11日)世論調査結果を掲載し、ペレス・モリーナ野党愛国党(PP)前幹事長が前回調査(2010年12月実施)における支持率(42.9%)を更に伸ばし(38.9%)、支持率2位のサンドラ現大統領夫人支持率(11.1%)との差を広げた。

(「本日大統領選挙があるとしたらどの候補に得票するか」との質問に対する回答)

(ア)ペレス・モリーナ愛国党(PP)前党首： 42.9%

(イ)サンドラ大統領夫人： 11.1%

(ウ)アルス一元大統領(現グアテマラ市長)： 6.7%

(エ)スヘル「公約・確信・秩序」運動党(CREO)党首： 5.5%

(オ)カバジェーロス「ビジョンと原則」党(VIVA)党首： 4.1%

(カ)バルディソン自由民主会派(LIDER)党首： 1.8%

(キ)モンテネグロ・グアテマラ集合党(EG)党首： 1.5%

(ク)メンチュウ・ウィナック政治活動(WINAQ)代表： 1.5%

(ケ)リオス・グアテマラ共和戦線(FRG)国会議員： 0.8%

(3) 本年選挙における治安上の懸念関連

(ア)最高選挙裁判所(TSE)及び私立ラファエル・ランディバル大学は、本年9月に実施される大統領選挙で治安が悪化すると予想される地域に関する報告書を纏めた。ビジャグランTSE長官は、内務省及び国防省と共に有権者が投票所へ行く際の安全を保証するための計画を準備している旨表明した。

(イ)人権擁護官事務所及び内戦被害者家族支援組織GAM(Grupo de Apoyo Mutuo)も、国内7県(ペテン、サカパ、イサバル、アルタ・ベラパス、フティアパ、サン・マルコス及びウエウエテナンゴ県)と国内144自治体を、選挙期間中に治安が悪化することが予想される地域として特定した。

(4) ウィキリークス関連

(ア)15日付スペイン「エル・pais」紙はウィキリークスの情報として、2009年、カストレサーナCICIG(グアテマラ無処罰問題対策国際委員会)代表(当時、スペイン人)がマックファーランド当地米国大使に対し、グアテマラ領土の約60%が、構成員のリクルートや治安・司法関係者の賄賂を目的としたメキシコを中心とする麻薬組織の統制下に置かれていると述べた旨明らかにした。

(イ)同じくスペイン「エル・pais」紙に掲載されたウィキリークスの情報によると、2010年、カストレサーナCICIG前代表はマックファーランド当地米国大使に対し、ポルティージョ元大統領が、キンタニージャ前大統領府要人警護庁(SAAS)長官を通じて、2003年にコロン大統領の選挙陣営に資金提供をしたと見られる旨述べた。

3. 治安情勢関連等

(1) アルタ・ベラパス県の戒厳状態宣言終了

19日、アルタ・ベラパス県全域に対する戒厳状態宣言(昨年12月19日発令)が終了した。メノカル内務大臣

は18日、同戒厳状態宣言発令期間(60日間)中の成果として、犯罪率の57%減少、家宅搜索約100軒の実施、麻薬密輸組織「ロス・セタス」のメンバーと見られる関係者301人の逮捕、盗難車両8台の押収、168丁の武器を押収を指摘した。

(2) 市長候補の殺害

18日、フティアパ県モユタ市長選に出馬予定(与党国民希望党(UNE)及び国民大連合(GANA))のマイラ・レムス氏(女性)を狙ったと見られる襲撃事件が発生し、レムス氏を含む8名が死亡、2名が負傷した。

(3) キチェ県における発電所の破壊

16日、キチェ県ネバツフ市郊外のハクバル水力発電所の発電塔3塔が破壊された。メノカル内務大臣は、同水力発電所に対する恐喝を行っていた容疑者グループを特定した旨を発表した。

4. 外交

(1) ロダス外相の米国訪問

(ア) ロダス外相は米国を訪問し、2日、インスルサ米州機構(OAS)事務総長、モレノ米州開発銀行(IDB)総裁等との各会談を行った。インスルサOAS事務総長は、本年の当国選挙において、透明性が保たれ民主的に実施されることを目指しOASが選挙監視団を派遣する予定である旨表明した。ロダス外相は更に米国在住移民グループとの会合も行った。

(イ) 3日、ロダス外相はクリントン米国務長官と会談し、中米地域治安対策、米国内におけるグアテマラ移民問題等について協議した。会談後ロダス外相は、グアテマラ、エルサルバドル及びホンジュラスが共同で行っている治安対策への援助にクリントン長官が関心を示したと述べると共に、移民問題関連では、2010年に当国で発生した自然災害及び当国の復興過程に鑑み、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア及びハイチを対象とする米国内移民に対する一時的身分保障(TPS)のグアテマラ国民への適用も要請した旨明らかにした。また米国による当国に対する軍事援助についてロダス外相は、内戦時代関連の国軍機密情報書類11万点以上を公開しており、米国のグアテマラに対する軍事協力禁止措置は解除されるべきである旨表明した。

(2) ブラウンフィールド米国務次官補(麻薬対策担当)の当国訪問

7日、ブラウンフィールド米国務次官補(麻薬対策担当)は当国を訪問し、コロン大統領と会談したほか、米国支援により設置されたグアテマラ県ミスコ市の「モデル警察署」の視察等を行った。コロン大統領は、ブラウンフィールド国務次官補に対し組織犯罪や麻薬取引の現状を説明すると共に、本年6月に中米レベルでの麻薬対策計画に関する国際会議を開催するための準備を進めている旨述べた。ブラウンフィールド国務次官補は、米国が引き続きメリダ・イニシアティブやプラン・コロンビアによる支援を継続すると共に、組織犯罪対策としては新たな支援策が必要となる旨述べた。